

当院にて病理解剖を施行された患者さんの診療情報および心臓組織を用いた臨床研究に対するご協力のお願い

研究責任者

病理学教室 岡田保典

実務責任者

病理診断部 蔵本純子

このたび当院では、病理解剖を施行された患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんやご遺族への新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれないご遺族は、その旨、実務責任者・蔵本純子までご連絡をお願いいたします。

1 対象となる方

2009年から2013年までの間に、当院にて病理解剖を受けた患者さん。

2 研究課題名

解剖例を用いた日本人における卵円孔開存の罹患率の解析。

3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部病理学教室

慶應義塾大学病院病理診断部

慶應義塾大学医学部循環器内科

4 本研究の目的

卵円孔は、胎児循環の時に心臓の心房中隔に開いている孔であり、出生後に閉じるのが通常です。しかし、出生後に閉じずに開いたままになることがあり、卵円孔開存症と呼ばれています。卵円孔開存症は症状が出ないことが多いですが、脳塞栓症の原因として指摘されており、重要な先天性心疾患の一つとなっています。黒人・白人の解剖例を用いた研究における卵円孔開存症の罹患率は約25%と報告されていますが、アジア人の解剖例を用いた罹患率のデータは乏しいのが現状です。そこで、当院の病理解剖検体を用いて、日本人における卵円孔開存症の罹患率を調べることを目的としています。

5 協力をお願いする内容

この研究では、心臓の心房中隔に卵円孔があるか否かを観察します。卵円孔がある場合は、卵円孔の大きさ、孔の長さを計測します。また、患者さんの診療情報(年齢、性別、主病名)を参照させ

て頂きます。

6 本研究の実施期間

西暦 2014年08月01日～ 2015年3月31日（予定）

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第3者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

研究機関名：慶應義塾大学医学部病理学教室

慶應義塾大学病院病理診断部

慶應義塾大学医学部循環器内科

住 所：〒160-8582東京都新宿区信濃町35

電 話：03-5363-3764（直通）

担当者氏名：蔵本 純子（くらもと じゅんこ）